

特別展覧会
利根山光人没後十年
「松本清張・火の路」原画展



会 期： 平成16年6月1日 ~ 6月30日

午前9時~午後5時

会 場：聖徳大学

クリスタルホール・利根山光人記念ギャラリー

入 場：無料



ご あ い さ つ

創立者川並香順先生は、聖徳太子の「和」を建学の精神とし、すぐれた環境の下で情操教育を進めなければならぬと絶えず主張していました。昭和39年の聖徳学園短期大学(現、聖徳大学短期大学部)新校舎建築に際しても、「校舎は箱を作るだけではなく芸術的な環境が大切である」と説かれました。その考えを受けて、利根山光人先生は新校舎建設にあたり、設計やその他の企画に参画し、芸術的な環境づくりを目指しました。

こうして学園内には魅力あふれる壁画がいたるところに設置され、その後も引き続き本学園の色彩計画や綴帳・スタンドグラスの制作などにご協力を頂きました。特に、古代遺跡や古墳の壁画などにも深い興味と関心を持たれていた先生は、それらをモチーフとした作品を数多く制作しています。1号館の玄関に制作された初期の作品では「若さ」と題するガラス・モザイクの躍動した壁画が学園の発展に夢と希望を与えております。その作品数も次第に増加し円熟した芸風で39点にまで達しました。

今年は利根山光人先生(1921-1994)の没後10年に当たります。この機に本学が所蔵している先生の作品の中から、素描画と色鮮やかな油彩の絵画を選び、前期・後期の2回に分けて公開します。

前期は、昭和48年6月から昭和49年10月まで、松本清張が朝日新聞の朝刊に連載した小説「火の回路」(後に「火の路」で出版)に挿絵として描いた原画を中心に展示します。後期では「利根山光人の世界」展として、所蔵している未発表の秀作品を公開します。この機会に、永遠に生き続ける芸術作品の素晴らしさをご堪能ください。

平成16年6月1日

学校法人東京聖徳学園理事長
聖徳大学学長
聖徳大学短期大学部学長
学園長 川並弘昭

展 示 作 品

- 松本清張「火の路」(朝日新聞連載小説)に挿絵として描いた原画 23 点
- その他、松本清張の出版物など。

主な挿絵の原画



1973 年 8 月 30 日 (第 75 回)



1973 年 12 月 24 日 (第 190 回)



1974 年 1 月 4 日 (第 200 回)



1974 年 1 月 22 日 (第 218 回)



1974 年 2 月 27 日 (第 254 回)



1974 年 6 月 29 日 (第 374 回)

発行 聖徳大学川並記念図書館